

N I E 学 習 (新 聞 を 使 っ た 国 語 学 習)

宮 崎 県 立 延 岡 星 雲 高 等 学 校
教 諭 野 村 記 子 増 田 貴 光

1 はじめに～本校の現状～

本校は、普通科と国際人文科からなり、平成20年度現在創立4年目を迎える新しい学校である。延岡西高等学校と延岡東高等学校の歴史と伝統を受け継ぎ、「新しき風をおこせ」という言葉を胸に新しい伝統を築こうとしている。一方で、創立時、4クラスから6クラスへと増加した学級数は、来年度入学生からは5クラスになることが決定している。少子高齢化という社会の流れは本校にも大きな影響を及ぼしつつある。生徒の進路としては、ほとんどの生徒が大学進学を目指しているが、専門学校、就職を希望する生徒も年々増えている。また、受験方法が多様化し、かつ生徒の実態も多様化する中、学校は多角的視点による柔軟かつ適確な対応が要求されるようになってきた。

本校において新聞は、従来、図書部で主要全国紙新聞と地方新聞を定期購読し生徒に閲覧させるようにしてきた。進路実現を想定にいれるならば極力全国紙を読ませたいと思い指導にあたっているが、人気は地方紙にあるようである。延岡市の家庭においては夕刊デイリーが最もよく購読されている。地域の情報はもちろんのこと、学校や地域での生徒の活動も載ることが多いため、親しみやすい存在となっている。ただ、経済的状況から、全国紙の朝刊との併読はできないようで、全国紙を家で購読している生徒は少ない。今回のNIE事業を通して、全国紙にもより親しんでほしいと考えている。

2 実践の方向性

世界的な不況の中、それぞれの将来へ希望を持つべき生徒たちに、未来を語りづらい現状もある。さらに、映像メディアの進化により、生

徒たちの活字離れの問題も深刻なものになってきている。読書を勧めても極力「読みやすい」ものを選ぶ傾向にあり、携帯小説の存在も憂慮すべきものである。

そのような中、学校における「新聞」の活用方法とはいったいどんなものがあるのか考え、実践を行ってみた。新聞には写真などの画像があり、比較的生徒に親しみ深いと考えられる。その新聞を手に取り、教材として親しんでいくことで、社会への視点も持つことができると考える。また、全国紙を中心に読み社会情勢をつかみ、社会に対する自分独自の視点を持つことにより、自分も社会の一員なのだということを認識させたいと考え取り組んだ。

提供される新聞は、図書室前の廊下に置き、自由に利用できるようにした。また、NIEの取り組み実践例を黒板に貼り、目に見える形で提示し、校内の意識を喚起させた。

<新聞提示の風景：図書室前>



3 本校の取り組み計画

年度当初、本校教員を対象にアンケートをとり、どのような取り組みが可能か、調査した。回答を以下にまとめる。

(1) 国語科

- ・週末課題などでの実施。内容は、新聞の記事を切り抜いてスクラップし、語句の意味調べ、要約、感想を書かせる。
- ・3年生の受験指導の一環として進路にあったNIE活動を行わせる。
- ・新聞作りを通して、文章の表現、構成などを学習させる。
- ・テーマにそった新聞切り抜き特集作りを行わせる。

(2) 地歴・公民科

- ・現代社会の授業で、毎時間クラスの2、3名の生徒に、気になるニュースについて、内容、感想を発表させる。
- ・夏季休業などで、プリントに、新聞記事の要約、感想記入などをさせる。

(3) 家庭科

- ・3年生の授業で、「家庭」に関する記事について取り上げさせ、意見をまとめさせる。

(4) 英語科

- ・週末課題で、英字新聞の記事を切り取りノートに貼らせ、要約、感想を書かせる。

(5) 学級

- ・学級通信に、生徒の興味、関心を育てるようなコラムを載せる。
- ・日直に、学級日誌に、前日、もしくは当日記事を貼らせ、感想をまとめさせる。

計画として多いのが、記事を切り抜きノートに貼らせ、要約、感想を書くという、いわゆるスクラップノート作りである。高校では、大学受験を目標とした学習が主となり、活動を取り入れた授業も受験を意識したものとなる。よって、推薦入試を想定に入れた、スクラップノート作りが主流になる。また、週5日制の導入により授業時間の確保が難しく、受験指導が最優先されるため、学校全体での大々的な活動は困難である。

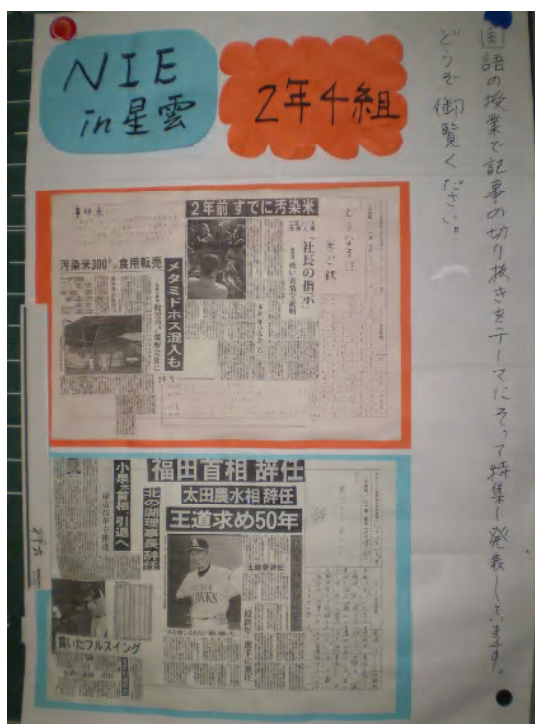
4 国語の授業における実践例（2年生）

学校全体での取り組みが不可能であったため、一部の教科での実践をここでは紹介する。

(1) 普通科（2年4組）

授業では、大学受験に必要な知識を得ることを第1の目標とし、新聞を利用した。本校では推薦入試対策として年に1、2回小論文模試を受験しているが、その結果から、生徒の弱点は知識不足だということが分かった。文章を読み取る力が弱く、さらに社会的なことに対する知識が薄いため、内容的に薄い小論文になる。そこで、自分の進路に必要な知識を身に付けさせるため、新聞記事の切り抜き特集作りを行わせ、1時間に1人ずつ、5分程度の発表をさせた。

<発表内容の掲示>



実践してみて気付いたことは、生徒の進路に対する意識の差であった。自分の進路がしっかりと方向付けられている生徒は、記事特集にテーマを持っていた。さほど意識の高くない生徒は、特集を作るところまでできなかったが、それでも自分の進路の方向付けに対するきっかけにはなったようだった。

(2) 国際人文科（2年7組）

最終目標を「星雲高校新聞の作成」とし、「感動」をテーマに掲げ、取り組んだ。新聞を作成するには、まず、情報の伝達・表現を学習する必要があるため、第1段階として、新聞の記事を取り上げ、文章の構成・情報の量・表現方法を学習した。

本校の国際人文科は語学研修でオーストラリアに行くので、帰国後、第2段階として、「語学研修」をテーマとした、ミニ新聞を作成し、発表・回覧を行った。



最終段階として、数名のグループに分かれて、「星雲高校新聞」の作成に取りかかった。



実践し気付いたことは、情報・知識を文章化することが、生徒にとっていかに難しいことであるかということだった。今回の授業を通して、「多くの新聞に触れ、文章表現を学べた」「小論文に活かしたい」などの声があったことから、今後もNIEを利用した授業を積極的に行う必要があると感じた。

5 今年度を終えて

NIEの実践依頼を受け、初めに考えたことは何か学校全体で取り組めることはないか、ということだった。しかし、検討したが実現することができなかった。その要因は何よりも時間不足である。先にも述べたように週5日制の導入により学校で過ごす時間は限られており、新たな実践を行うための時間を確保することはできなかった。また、授業時間においては、受験対策を第1に考えなければならぬため、限られた授業時間をNIEの活動にあてることがなかなかできなかった。その結果、活動内容は、各教科や各校務分掌、学級などにまかせることになり、学校全体で統一した活動を行うことはできなかった。

学校全体での活動はできなかったものの、生徒の新聞に対する意識は高まったことを実感した。新聞を通して、社会に対する眼も開かれたように思う。今回は、国語科の授業での取り組みを報告したが、地歴公民科の授業でも幅広く新聞を利用した授業が展開されており、今後はそういった他教科の活動の報告も考えたい。来年度は実施2年目を迎え、まとめの年となる。今年度の活動を受けて、学校全体の取り組みを総合的に視野に入れながら、生徒にとって有意義な年にしていきたいと思う。